



令和3年1月1日現在	
総世帯数	1,410世帯
総人口	2,534人
男	1,202人
女	1,332人

『源智の井戸』 豆知識

宮村町一丁目町会
山本 慎一

源智の井戸は、現在の形に整備されて井水が湧出するようになつてから、今年で三十二年目になります。

昭和四十二年(1967)には松本市特別史跡に指定され、平成二十年(2008)に環境省から全国「平成の名水百選」のひとつにも選定されました。



源智の井戸の名の由来は、

井戸の所有者が安土桃山時代の天正年間(1573~1592)に信濃深志城(現在の松本城)城主、小笠原貞慶の家臣だった河辺縫殿助源智(かわべぬいのすげんち)であったため、その名をとって源智の井戸と呼ばれるようになりまし。

戦国時代、小笠原貞慶は信濃を侵攻していた甲斐の武田信玄に敗れて、NHK大河ドラマ「麒麟かくる」で京都を治めていた三好長慶(松永久秀が仕えていた)を頼り、長慶の病死後には越後の上杉謙信、謙信の死後には織田信長、本能寺の変の後には徳川家康のもとを頼った経緯があります。最後は、小笠原貞慶は家康の支援を受けて、信濃深志城に戻ることにあります。戦国時代はいかにして家を守るかが大変だったかが伺いれます。源智の井戸とは、そんな昔から今に至る史跡です。

現在の井戸は、天保十四年

(1843)に書かれた「善光寺道名所図会」の史料を参考に整備されています。井筒の上部が開放されているのは、この図会に倣っているわけです。衛生上、問題はありません。

現在、極寒の中でも井戸・水路・榛の木川の清掃を町会有志で構成する「井戸を守る会」と「松商学園高等学校源智寮」の生徒さんがボランティア活動をしています。本頭に頭が下がる思いでいっぱいですが、いつもご苦労様です。



今年の秋は京都へ行こう

南源地町会
野口 宏

年明け早々、秋の話かと思われるかもしれませんが、秋にはコロナがおとなしくなってくれている事を願って。

昨年父親の介護から解放され四年ぶりの京都へ。通うきっかけはJR東海のCM

「そつた京都へ行こう」真正極楽寺の紅葉を見てからで、一番いい時のプロの映像に騙され、夜中両親を起こし車で有名どころを回り日帰りしたのが始まりでした。秋の紅葉と春の桜に魅せられ今は土曜の晩にライトアップを撮影し、二十三時の夜行バスで早朝帰松し、その後仕事というハードスケジュール。

朝六時、まだ暗い京都駅に到着。まずは市バスの一泊乗車券六百元を購入。京都市内は経路が多く覚えきれませんが、行く場所がわかっているれば経路は限られるので移動も楽に。朝一番に行くのなら六時半から拝観できる清水寺。舞台を独り占めできるかも。嵐山は、渡月橋越しに日の出を見たり竹林の道を散策しながら人気のお寺に入れるのを待つのもありですが、やはり一番はバス一本で行け早朝から境内に入れる真正極楽寺です。本堂へ進むモミジ並木の参道や三重塔、苔むした緑と紅葉の赤に静寂の中シャッター音だけが響きます。時間が経つのも忘れ、二時間はあっという間に。近くには哲学

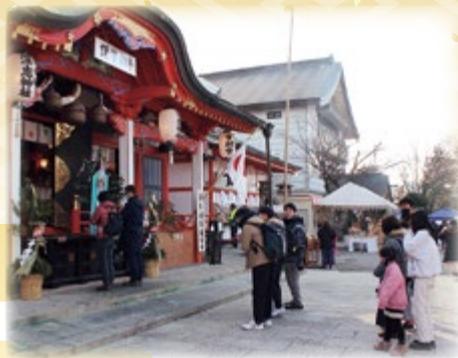
の道もあり霊鑑寺、安楽寺、法然院も徒歩で回れますが、今年に限っては少しでも人の少ないお寺を回らなくてはならないので詩仙堂近くの圓光寺にバスで移動。畳の間から眺める十牛之庭は息を呑む美しさ。人が写らない写真撮れるのは入園開始直後のほんのわずかな時間です。その後庭や竹林を抜け高台から紅葉の庭園越しに京都市内を眺め…おっと、字数が一杯、続きは第二地区文化祭の写真をお楽しみに。



新年

おめでとう

ございます



新春の一句

元旦や
初詣にも
ソーシャルディスタンス

字あまり…

第二地区歴史文化継承事業
「みんなの町を知ろう」

歴史文化継承委員会会長
鴻田 益孝

11月15日、第一地区公民館で歴史文化継承委員会の設立総会と記念講演会が行われました。

講演会は、「第一地区の歴史・文化を学ぶ―史跡・社寺・地名を中心に―」という演題で、馬場家住宅館長の窪田雅之氏に講師をしていただきました。

信濃守護小笠原貞慶によって「深志を改めて松本の城」と称し、侍屋敷と町屋を明確に区分した近世的な城下町プランの形成に力を注がれました。町割りも、親町三町及びひ枝町に整備形成されました。これを契機に、第一地区の原型が作られ、その後明治、昭和には生糸産業の発展とともに、現在の第二地区の街並みが形成されました。

講演では、この形成された町の成り立ちや町名の由来、各町会の史跡の説明など丁寧に分かりやすく話して頂きました。講師の窪田氏も第二地区生まれで地域の事を熟知されており身近なお話も多く語って頂きました。聴講さ

れた皆様も、「歴史文化のまちづくり」を推進する一助になつて頂ければと思います。今後も、講演会や史跡探訪等を行う予定です。



馬場家住宅館長
窪田 雅之氏



『ふれあい健康教室』

第二地区町会連合会長
青柳 孝明

去る十二月十八日、公民館大会議室にて『ふれあい健康教室』がご利用者さん二十五名を迎えて行われた。

保健師による、血圧測定と健康相談の後、ストレッチ体操も行い健康増進を図った。

昨年までは、保育園児を迎え盛大に『クリスマス会』を行ってきたが、新型コロナウイルスの影響で、来館は中止。

そこで、職員がトナカイとサンタさんに扮し、場を盛り上げ、お楽しみビンゴゲームではサンタさんとトナカイさんからプレゼントも。

来年こそ保育園児を迎えるのクリスマス会ができることを心から願うところである。



すすき川

昨年はコロナウイルスに振り回されました。感染者数が毎日のニュースで報道されるのが当たり前になり、挙句には年末の紅白歌合戦が無観客で行なわれ、昨年いっぱいまで終了するはずだったNHK大河ドラマ『麒麟がくる』は、放送が中断した期間が影響して、まだ終わっていません。

2月7日まで続くそうです。この放送中断という初めての事態に、NHKは視聴者の気を逸らさないためでしょうか。『歴史ヒストリア』『智恵泉』等の番組で主人公の明智光秀および本能寺の変を取り上げていました。

そんな時に私が手にした一冊の本。『本能寺の変・431年目の真実』という書名で著者は明智憲三郎氏。かの明智光秀の直系の子孫とのことでした。そういえば、かつての大河ドラマの『女城主直虎』で、井伊直政が明智光秀の子供を保護して領地に連れ帰ったシーンを見たような…と思い当たったものでした。

今はコロナウイルスの今後と『大河ドラマは本能寺の変の真相をどう考えているか』が関心事です。
(井野根)